

人は杏實を乾燥せるものを穀食に換ゆると云ふ。

### 第三節 崑崙山脈の跋涉

#### 一、宛然たる大名行列

九月十五日、葉爾羌を發し名にし負ふ世界の高山、崑崙、ヒマラヤの兩山脈を跋涉せんとす。顧みれば予一人の爲に、荷物を負ひ、天幕を負ひ、糧秣を負ふの馱馬乗馬合せて十二頭之に伴ふ馬夫數名の外、從僕二名(内一名は通辯兼馬丁)陸續相繼ぐもの、宛然東海道に於ける舊大名が參觀交代の行列を忍ばしむ。されど斯の如きは、此の旅行上已むを得ざる結果にして、何人と雖も亦然らざるを免れざるなり。實に其の準備の仰々しき丈け、該山跋涉の如何に困難なるかを證明するに足らん。新疆印度の商人、同山を通過せんとするには、皆隊を組み、名づけて「キャラバン」と稱す。是に於てか予は一面、又其の「キャラバン」然たるものなりとす。

午前六時二十分、陳協臺、張都司を始め、其他數名の人に見送られて發程し、八時オ一タンチボク(人家約二十五)に小憩し、九時三十分葉爾羌河を渡る。河幅約千米突、流水三

葉爾羌出發

葉爾羌河を渡る